

石花 ちとく (いしはな ちとく)

1969年11月山梨県生まれ
2009年頃から本格的に石積み遊び開始。2011年からSNSで世界中のロックバルシングアーティストと交流、2012年9月に石花会発足。以来、各種イベントに出展、石花ワークショップで石花アートを出展するだけなくさんの方々に体験していただいています。

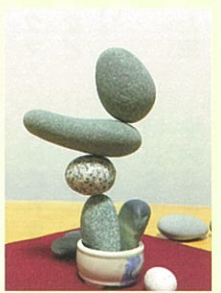
石花会公式サイト: <http://www.ishi-hana.net/>
石花ちとく個人サイト: <http://chitoku.balancing.jp/>



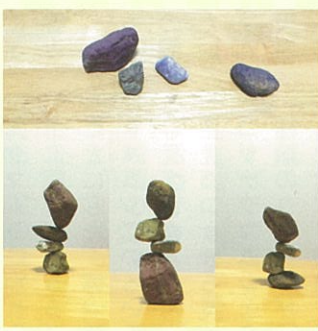
28 石花 ちとくさん
日本発ロックバルシング、石花！しませんか？

【はじめに】

人類が生まれる何千年も前から、もしかしたらもっとずっと前からそこにあり、私たちが死んで人類が滅びて全ての動植物が絶えてしまっても、しれーっとそこにあるのが石です。また、石は、人類が最初に手にした道具です。投げたり、つぶしたり、こすったり、掘ったり、割って切り裂いたり、打って火をおこしたり、装飾したり、魔除けにしたり、神様に見立てたのも石です。そんなことに関心の無い子供たちでさえ、目にとまった石ころを宝物として、あるいはお守りとして、大人になっても机の奥に大事にしまっていたりする。私が石花と呼んで、立てたり積んだりしているのは、そういう石です。



接点のスレが醍醐味。



四つの石ころで三種類の石花。他にも積み方や組合せは無制限！

【概要】

ロックバルシングというのは見えての通り、岩や石を積み上げるアート。素材は石だけ、海辺や河原で誰にでも気軽にできる純粋素朴なアートです。とはいえ、初めて見た方々は皆一様に驚いて「出来っこない」と仰います(笑)。そこで取り急ぎ、私たちは、こう答えます。「石を持って！やれば分かるから！」

さて、私たちとは誰か？

↓石花会です。石花師10名と会員60名ほどの、今はまだ小さな団体です。

石花会は、石花(ロックバルシング)のワークショップやイベントの活動をしています。より多くの方々に、石花や石そのものの魅力をご理解いただくとともに、その不思議な癒しを味わっていただいています。

石花とロックバルシングの違いは？
↓同じです。

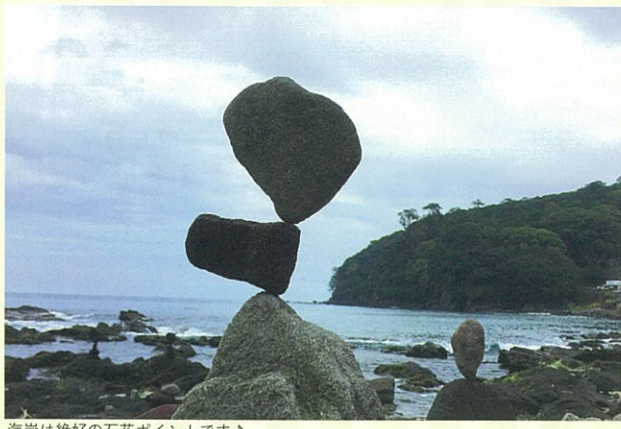
ロックバルシングは、日本で注目される前から、世界中に愛好者がいます。私たちは、日本人が日本で楽しむロックバルシングの名称として、それを「石花」と名付けました。和風を意識した石花 (Stone Art) は、盆栽や生け花を連想させ、海外においても概ね好評を得ています。

■はなす

石花アートで、唯一難しいと思えるのは「指離れ」。来た！立つ！そう思った瞬間に、すぐ手を離さない石はあつという間にバランスを崩します。上手に離すためには、体がグラグラしないよう、膝や腰に負担がかからない最適な位置での作業が重要ですよ。実は、指離れの瞬間こそ、石花アートのヤマ場、ハマる人はこの瞬間の気持ちよさにハマるのです!!

■つつす

石花は、風で倒れる儚いアートです。ゆっくり眺める前に、ひとまず写真を撮りましょう。そのとき、出来るだけ「接点」が小さく写るように撮るのがコツ。また、空や水面を背景にして、石花を際立たせると綺麗に撮れます。時間帯にもよりますが、逆光のシルエットが個人的にはオススメ！水面のキラキラや、鮮やかな夕陽を背景に出来たら、モー最高！



海岸は絶好の石花ポイントです！



ちとく現在のお気に入りスタイル！



石花師による石花ワークショップ

【入門編】

というわけで、外に出て石花！ここから入門編です。

■さがす

石はどこにでもあると思われがちですが、都市部で石ころ探しは絶望的。可能な限り大きな河川や海岸に出ることをお勧めします。探すべき石は、コレ！と目にとまった石。人それぞれ、コレ！と思う石は違います。その石を手にした瞬間から、石花アートは始まっています。

■めぐる

ひとつでも、いくつかでも、コレ！というお気に入りの石が見つかったら、まずは汚れを落として様々な方向からまんべんなく眺めましょう。手触りを楽しみ、重さを感じ、その石が映える一番かっこいい向きを見つけてください。

【Have a rest a Qi】

なぜ始めたか？
↓休日公園に連れ出していた子供(当時3歳)の手離れ。それよりずっと前に、ロックバルシングの映像を見たことがあったので、公園での暇つぶしに真似てみたら、超面白かった！というわけです。

なぜ続けるのか？

↓面白いから!!思うに、面白くないことや、お金がかかることは続けることができません。石花は、石だけあればこんなに癒される！しかも美しく、見るだけの人もそこそこ癒される！つまり石花は、自分でやってこそ楽しめるアートです。

【応用編】

そしてここから応用編！理屈じゃないので、あとは「自身でやってみよう」です。以下の手がかりを参考に「複数の石を積み上げる」応用編を完成させましょう。
◆お気に入りの石をトップに据える。
◆真つすぐを意識しないこと。
◆全部の石を同時調整。
◆高さ、個数にこだわらないこと。
◆目で見ない、理屈で考えない、指先の感覚だけを信じること。

※危険ですので、絶対に置き去りにしないでください!!
戸外で楽しく立てた石は、崩して帰るのがルールです。